

未来を担う人材の育成を目指して

～伝統を継承し、未来へ綱げて～

地域の 特色ある 活動

※町民の誇りと象徴である「与那原大綱曳」を継承発展させていくため「つなげる」には「綱」を使用している。

沖縄県与那原町教育委員会

1 はじめに

与那原町は、沖縄県の県庁所在地である那覇市から東へ約9km、沖縄本島南部の東海岸に位置し、中城湾に面しており、面積は5.18km²と本島内でも最も小さな自治体です。

本町は、1949（昭和24）年4月に旧大里村（現南城市）より分離し、町政施行を開始してから今年で75年を迎えます。これまでの先人達のご尽力で、現在の人口は、町政施行当時の約5,800人から20,000人を超え、今後もさらに人口は増加する見通しとなっております。また、「脱炭素地域づくり事業」「スポーツツーリズムをコンセプトとした公有地活用事業」「MICE エリア形成事業」が進められており、沖縄本島南部東海岸の中心地として、今後ますます発展が見込まれる地域です。

与那原町のシンボルとして、五穀豊穡、無病息災、子孫繁栄を祈願して始まった「^{よな}与那原大綱曳」（第23回ふるさとイベント大賞にて内閣総理大臣賞受賞）があります。450年余受け継がれているといわれている伝統行事で、町内外から多くの老若男女が集う与那原

町最大のイベントです。

2 本町教育の基本構想

我が国は、少子高齢化、国際化などが急速に進む中で、地球環境問題への対応等、様々な課題に直面しており、それらに対応するための教育の実現が求められています。

そこで、本町教育委員会においては、法令はもとより、国の教育改革の基本的な考え方や本県の教育目標並びに本町の第5次総合計画や町民憲章などを踏まえて、生涯学習の視点に立って、時代の進展や諸々の課題に主体的に対応できる能力を持ち、个性的で創造性に富み、人間性に満ち溢れた町民の育成を図らなければならないとしています。さらに国や郷土の自然や文化・伝統に誇りと愛着を抱くとともに、異文化に対する深い認識と敬愛の精神を持ち、良き国際人としての資質を兼ね備えた町民の育成を期して、教育目標を設定し教育施策を推進します。

3 施策の紹介

(1) 子供達の与那原大綱曳への参加

本町のシンボルである「与那原大綱曳」には、多くの幼児・児童・生徒が参加し、地域の伝統を発展・継承しようとする意欲を高める取組を行っています。

幼稚園・保育園では運動会に綱曳を、小学校では田植え、稲刈りを、中学生は男子が金鼓隊（きんこたい）、女子は前舞い（メーモーイ）で参加して、大綱曳との関わりを持ちます。小学生が育て、刈り取った稲の藁は大綱



与那原大綱曳

作りに使われます。

金鼓隊、前舞いの指導は、地域の方が行い、次世代に引き継いでいきます。



子供達の参加

また、大綱曳本番前には、子供綱曳大会、子供エイサーも行われます。

(2) 県内ホームステイの実施

外国語や異文化に対する興味・関心や学習意欲を高め、将来、国際性豊かで、郷土に尽くす有能な人材を育成する目的で、本町在住の中学生を対象に、県内在住の外国籍家庭へのホームステイを実施しています。以前は外国でのホームステイでしたが、コロナ禍をきっかけに県内のほうがより多くの生徒を派遣できるとして県内に派遣先を移しました。

3日間の事前研修を受けた後、3泊4日のホームステイを行い、2日間の事後研修を行います。

また、ホームステイの様子を2月に行われる「町学力向上推進実践発表会」（後述）にて報告します。

(3) オンライン国際交流事業

中学生の英語力、コミュニケーション能力を高めることを目的に、予算を計上して「オンライン国際交流」を実施しています。希望者や学年を指定しての参加で、参加者は交流会に向けて英会話の練習に励み、当日は英語での自己紹介や沖縄の文化を紹介します。フリートークタイムでは活発に質疑応答をするなど、外国の中高校生と交流を深めることができます。

「はじめに」で触れましたが、MICE 施設が誘致され、本町は今後国際化の拠点として大きな役割を担っていきます。この事業を通して国際社会で活躍できる人材を育成できればと思っています。



オンラインでの交流

(4) 学力向上推進実践発表会

町民の教育に対する関心と理解を一層高

め、学校、家庭、地域及び行政が連携して教育に関する取組を町全体で推進し、町における教育の充実と発展を図るため、2月1日を「与那原町教育の日」と定め、毎年2月を「教育月間」としています。

その取組の一環として、毎年一回「学力向上推進実践発表会」を実施しています。主な内容は、午前中は学校の授業参観、午後は各幼・小・中学校の学力向上に向けた取組の発表、地域の取組の発表、教育委員会の取組の発表、県内ホームステイ参加者の報告、そして、この一年間に教育活動等で顕著な功績のある児童生徒の表彰を行っています。

この発表会を通して、「与那原町では、学校、地域が一体となって同じ方向へ向かい、子供達をみんなで見守りながら、いろいろなことに取り組み、未来を担う子供達を育成していることがわかりました」などの評価をもらっています。



発表の様子

4 おわりに

本町教育委員会では、保幼こ小連携、小中連携の一環として「育ちの綱がり」を発行しています。保育園から中学校までの各段階における生活目標を示し、本町幼児・児童・生徒の育ちを切れ目なく繋げていくのがねらいです。

沖縄県で浸透している「人材を以て資源と為す」の言葉のとおり、本町の大切な子供達を学校、家庭、地域、行政が一体となり、切れ目なく支援を続け、未来を担う人材を育成するよう取り組んでまいります。



教育長

垣花 英正